

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）	

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 共通学士力に係る施策を推進する組織を設置する。	→新組織「共通教育センター（仮称）」の設置	A	A	A		
2. 全学開講科目として提供している各種授業科目群を全学共通プログラムとして再編し、学内外に明示する。	→共通教育科目群の体系の明示	C	C	B		
3. 全学共通プログラムに初年次教育科目群を新設する。	→初年次教育科目群の体系化	C	B	B		
4. 共通教育、専門教育についてカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを提示し、学習の道標とする。	→カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成	C	C	B		
5. MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数及び二学位取得者数を増加させる。（目標6、7に修正）	→MDS修了者数を1.5倍、及び二学位取得者数を2倍にする。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
6. MDS制度の改善を図り、MDS修了者数を1.5倍にする。（目標5より修正）	→MDS修了者数			C		
7. ジョイント・ディグリー制度の改善を図り、二学位取得者数を2倍にする。（目標5より修正）	→ジョイント・ディグリー制度による二学位取得者数			C		

## 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2010年4月、共通教育センター設置完了。
目標2	2010年度に、全学提供科目の編成方針および科目群の再編成を検討したが、実現しなかった。一方、2011年度からは、共通教育センターを中心とした全学提供科目について教育課程の体系性を明示し、学生が学習目的に応じた科目選択を容易にする冊子を作成している。
目標3	初年次教育として、2011年度に共通教育センターの全学提供科目「スタディースキルセミナー」を新設した。2011年度は3科目全16クラスを開講したが、2012年度は科目数を増やし4科目全20クラス、内2クラスは神戸三田キャンパスにおいて開講している。
目標4	カリキュラムマップは、学部教育の専門科目において2011年度に全学部が作成した。しかし学部間においてバラつきがあるので今後はDPとの整合性を検証していく過程でその高度化を全学的に統一して進めていく必要がある。カリキュラムツリーは2010年度以降全学提供科目においてその検討を進めているが、一部の科目で試行的に作成されているものの、統一的な作成にに至っていない、今後は統一的な作成について検討を推進していく。
☆ 目標5	
目標6	2011年度は学生への情報提供の充実のために、新たに新入生対象のリーフレットを作成するとともに、MDS履修冊子の内容を充実させたこともあり、2011年度登録者(129名)は2010年度の登録者(78名)の1.5倍強となった。しかし、目標は修了生を1.5倍とすることにあり、2011年度入学生がMDSを修了し卒業する2015年3月に初めて目標達成の成果が見えてくる。目標達成のためには、各プログラムの履修体系整備、履修単位数制限の緩和等の施策を講じ学生が修了しやすい学習環境を整備することが必要である。
目標7	2011年度は新入生のMDSプログラム登録者が2010年度と比し1.5倍強となった。この登録者がジョイント・ディグリー制度による編入学試験を受験し、二つ目の学部を卒業する2015年3月および2016年3月に目標達成の成果が見えてくる。目標達成のためには、ジョイント・ディグリー制度による編入学試験を実施する学部および3年早期卒業制度を導入する学部を拡大することが今後の課題である。
備考	